



◎丹羽幹事の歸朝

曾て歐米視察中であつた、本會幹事内務書記官丹羽七郎氏は、豫定の通り九月三十日横濱入港の天洋丸で歸朝、當日は本會を代表して田中幹事が横濱に出迎へたが、出發當時に比較すると大變な變り方である、一と眼直感したのは頭の薄す禿が無くなつたことである。在外一年氣樂な旅行であつた勢であるか、夫れとも獨逸での藥に効目があつたのか判らないが兎に角若返つて、瀟洒なスタイル昔日の氏では無い。

車中歐米に於ける道路觀を聞く積りであつたが、獨逸滯在中日本の新聞を觀て君等の拵へた乗合自動車法案に對し

地方長官會議が反對したと言ふことを知つたが、その後はドーしたかとの逆襲に會つた、ことの成り行きを説明すると、賢明な地方長官がその様な意見を持してゐるかと一笑憐憫、今の道路政策に自動車の效用を顧みないことがあるものか、殊に乗合自動車の如きものを度外視して完全な路政が出来るものでないと、歐米路政の現状を説いて自由放任主義を採つたが、現在に於ては漸次國家干渉主義に傾くに至つた事由を聞かされた。

伊太利で自動車専用道路を視察したが其の利用の盛なこととは豫想外であつたことやら、其の道路の起工式には例のムツソリニー首相が、列席して事業の激勵に力めたことやら、竣功式には皇帝が自ら臨場されて其の自動車が最初のテープを切つたことやら、次から次へと國を擧げて道路事業に盡してゐる話を聞かされて、羨望の感に打たれてゐるとき、早や東京驛に着いて了つた。

乗合自動車政策に、自由放任主義の探るべからざること、吾人が一再ならず主張した所であつて、丹羽氏の話を

聞いて内務省案に反対した地方長官が舊時の經濟思想に捉はれてゐることを證明し得て、何となく痛快に感じた。

氏の見聞し調査された歐米に於ける路政策は随分廣い深いものがあると言ふことであるが、萎靡振はない我路政を改革し、陸運の改良に資して貰ひたい。併しながら空閑一年の妻君の爲に、再び禿けぬ程度に、奮闘を祈つて已まない。

◎松本幹事の榮轉

本會幹事否な幹事長であつた、内務省神社局長松本學氏は這般の地方長官交代の際、静岡縣知事に榮轉された、氏は現岡山縣知事佐上信一氏の後を襲つて本會幹事と爲り、本會創立日尙淺きとき本會の爲に盡瘁されたことは今更事新しく言ふまでもない。這般の總會に於て理事に推薦することに爲つてゐたのであるが、謙遜固辭して承諾されない爲に、推薦中止の已むべからざるに至つた、夫れで誰れ言ふとなく幹事長と名稱を奉つた位に、本會の爲に盡された

のである。

静岡縣は我國現時に於て最も道路改良事業に力を注いでゐる縣であつて、そこに氏の赴任を觀たことは我路政の爲に喜ぶべきことである、行く先何かの仕事計畫し夫れを遂行して遣して行く氏は、静岡縣に又期待さるゝ事業も尠くないであらう、其の目論見には必ず道路事業も算へらるゝことを疑はない、ドーカ我國路政の爲に天下に範を示すだけの大事業を計畫して貰ひ度い、往時の勞苦に對し深甚の謝意を表し、前途を祝福して筆を擱く。

◎堀切理事の榮轉

理事神奈川縣知事堀切善次郎氏は、清野長太郎氏の後を襲つて神奈川縣に轉ぜられたのは耳朶に新しいことであるが、在濱約一年清野氏の後釜復興局長官として榮轉歸都された。

氏の手腕は今茲にこと新らしく言ふ迄も無い、氏に非ざれば遅々たる復興事業を促進することが出来ないと云ふ、

現閣輿望の下に、榮轉を觀たことは當然であつて、慶賀に堪へない。

復興事業の促進は言ふに易く實行困難な大現業であつて之が完成の爲には理想論を振り廻す必要もなければ、亦之を容るゝ餘地もない、唯だ實現力——市民の喜ぶやうに——市の實生活に適合するやうに、完成せしむるのが六ヶ敷しいのである、希ば我が帝都の爲に奮闘を祈つて、已まない。

◎パンフレット發行

道路改良事業に資すべき参考書を刊行して斯界従業者に提供することは本會事業の一であるが、這般來内務事務官飯沼一省氏に依頼しウキリアム、エー、バセット氏の受益者負擔制度に關する論文を譯し、今回刊行した、收むる所は歐米各國に於ける受益者負擔制度概觀と、受益者負擔に關する原理及之を實際に適用する場合に於ける方法論と、其の行政に關する事例の廣きに互つてゐる、道路改良事業

費財源の捻出に此方法を採ることは事業の容易を期する上に於て、常に計畫さるゝ所であるが、その實際の運用に方つて悩む所のものは、理論不明の爲に負擔方法の決定手續を如何にすべきかの問題である、本書は克く此點を釋明してゐるから、實務家の指針と爲るを疑はない、江湖に之を薦む。

◎御幸橋開通式

滋賀縣愛知川に架せられた御幸橋は、明治大帝北陸御巡幸の砌、時の籠午田縣令等によつて、始て架せられたもので、橋名の起因も此の由緒に據るのである。

爾來幾星霜を経橋體甚しく腐朽して、近時發達した交通や運搬に堪へぬので、昨大正十四年三年中旬架換工事に着手し、十有八ヶ月を経て本年九月中旬に至り漸く竣工した。それで秋空麗らかな九月二十五日、同橋畔の御幸公園で莊重な竣工式が舉行せられた、午前十一時神官修祓の儀から式は型の如く進み、小原滋賀縣土木課長の工事報告、黒

崎知事の式辭、内務大臣(清水書記官代)道路改良會長(郡
 筑幹事代)縣會議長、貴衆兩院議員總代、飛行隊長、關係
 郡村長其他多數の祝辭祝電の披露があつて式を終り、それ
 から吉例の三夫婦をはじめ愛知川町並に五箇莊村の七十歳
 以上の老人三十餘名を先頭に前記諸氏其他來賓數百名の通
 り初め式に移り、午後一時芽出度式を終つた。此日八日市
 場飛行隊からは十數機飛翔して、新橋の上空に祝賀飛行を
 行ひ、また愛知川原には競馬等種々な興を添ふるものもあ
 り、舊御駐輦所に於ては諸記録等の展觀を一般に許した爲
 め約八萬の出入と稱せられ同地空前の賑ひを呈した、因に
 知事の式辭、内務大臣並道路改良會長の祝辭は左の通りで
 ある。

式 辭

御幸橋架換工事竣成ヲ告ケ爰ニ本日ヲ以テ其ノ式典ヲ舉行スル
 ニ當リ本省特派官ヲ初メ多數來賓諸氏ノ貴臨ヲ辱ツシタルハ本
 官ノ最モ欣幸トスル所ナリ

御幸橋ハ國道中仙道筋ニ於ケル長橋ノ一ニシテ本縣東部ヲ縱貫

スル幹線道路中ニアリ而カモ架橋以來歲ヲ經ルコト三十年橋體
 漸ク腐朽シ交通上ノ危険ヲ感スルニ至リタルニ近時人馬車輛ノ
 往來頗ル煩繁ヲ加ヘ之カ架換ハ一日モ忽ニスハカサルモノアリ
 是ニ於テ新ニ計畫ヲ樹テ縣會ノ決議ヲ經國庫補助ヲ受ケ大正十
 四年四月工ヲ起シテヨリ着々豫定ノ工程ヲ進メ茲ニ其ノ功ヲ竣
 クルニ至レリ之ヲ舊橋梁ニ比スルニ其ノ堅牢ト風致トニ於テ全
 ク面目ヲ一新シタルヲ見ル惟フニ本橋ノ改築ハ交通運輸ノ利便
 ナ加ヘ地方開發ニ貢獻スルコト甚大ナルモノアルヘシ庶幾クハ
 地方人士宜ク力ヲ産業ノ興隆ニ用ヒ本橋改築ノ趣旨ヲ完フセム
 コトナ

大正十五年九月二十五日

滋賀縣知事正五位勳五等 黒 崎 眞 也

祝 辭

御幸橋架換工事成ルヲ告ケ本日茲ニ竣功ノ式典ヲ舉グルニ至レ
 ルハ邦家ノ爲寔ニ欣幸トスル所ナリ

願レハ本縣藝ニ瀬田野州ニ大橋ノ改築ナリシ今又本橋ノ架換成
 ルヲ見ル念フニ之ニ依テ帝國幹線交通ト湖東一帶ニ於ケル樞要
 都邑ノ交通トハ一段ノ利便ヲ進メ地方ノ開發國運ノ興隆ニ役ス
 ル所決シテ渺少ナラサルヲ信ス

翼クハ官民諸子一致相率キテ益々交通ノ完備ニ努メ長ク其ノ利ニ頼ル所アラムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十五年九月二十五日

内務大臣 濱 口 雄 幸

祝 辭

御幸橋架換其ノ功ヲ竣ヘ本日茲ニ開通式ヲ舉クルニ遭フ邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ禁ヘサルナリ

本橋ハ其ノ地位琵琶湖ノ南東ヨリ北陸ニ向フ中仙道ノ要位ヲ占メ 明治大帝北陸御巡幸ノ際初メテ架設セラレ橋名ノ由來スル所蓋シ此ニ在リ明治二十六年其ノ一部ヲ改良スル所アリシモ爾來三十餘年ヲ閱シテ橋體既ニ腐朽セルノミナラス構造亦近代交通ノ要求ニ適セス滋賀縣當局茲ニ見ル所アリ縣會ノ議決ヲ經テ大正十四年四月エテ起シテヨリ茲ニ五百有餘日今乃チ堅牢耐久ノ鐵筋混凝土橋成ルヲ見ル

念フニ本橋ノ完成ハ産業ノ進展ニ資輔スル所極メテ大ナルモノアルヘク今後益官民ノ一致協力以テ此ノ歴史的光榮アル本橋ノ維持管理ニ努メ永ヘニ其ノ効果ヲ完ウセムコトヲ望ムヤ切ナリ一言述ヘテ祝辭トス

大正十五年九月二十五日

道路改良會長 水 野 鍊 太 郎

◎茨城縣道路愛護運動の應援

茨城縣に於ては別項報導する如く縣下一般に互り道路愛護運動を舉行することゝ爲つて、本會の應援を求めて來たので、本會は其の趣旨に賛成し武井幹事を派遣して之が事業を應援した。

◎日野橋竣功式

甲州街道中多摩川横過の唯一の大橋梁日野橋が、震災後の府財政窮迫のときに計畫され、大正十四年六月着手してから一年三月の日子を關して遂に完成し、八月二十五日富嶽を望む多摩川清流の邊りに、之が竣功式を舉行せられた當日は夜來の雨も晴れて、此の盛式を見むものと近郷近在より老若男女無數集合して時ならぬ混雜を呈した、地元町に於ても興を加へる爲に種々の催しをなし、立川飛行場よりも飛行機數臺式場の上空に飛來し爆音勇ましく入れ亂れて或は高く或は低く飛び壯觀を呈した、本會よりは都筑幹

事列席して會長の祝辭を代讀し其の他官民多數列席し盛會裡に式を終つた。設計の概略及他より寄せられた祝辭は次の通りである。(貞雄)

日野橋工事概要

一 架橋位置

第八號國道東京府立川町入會多摩郡日野町

一 橋梁

川本流 延長二百一十七分(プレートガ
一(ダ) 一經間 六十尺五寸四分二十連
四間

面積 八百六坪八合

總工費 三十七萬六千六百七十六圓

内

上部構造 工費十三萬四千二百七十四圓

橋脚 高自二十七尺八寸三分 十九基
至四十四尺五寸四分

工費 十一萬九千八圓

橋臺 高二十五尺五寸 一基
至二十六尺五寸

工費 一萬二千七圓

取付道路 延長六百八十八間九分 砂利敷道
八厘 幅員六間半

工費 九萬七千四百三十一圓

雜費 一萬三千九百五十六圓

一 架橋工事着手 大正十四年六月

一同 竣功 大正十五年八月

式辭

第八號國道東京甲府線、立川日野兩町之間日野橋新ニ成リ茲ニ本日ヲトシテ開通ノ式典ヲ舉ケ

惟フニ地方ノ産業ヲ開發シ以テ文明ノ惠澤ヲ厚クシ國家ノ興隆ヲ庶幾ヤムトスル蓋シ運輸交通ノ利ヲ治ムルヨリ先ナルハナシ

此ノ地東京八王子兩市ノ間ニ位シ甲州街道ノ要路ヲ扼シテ玉川溶々タル處群ヲ南北ニ分チ日野立川ノ二町其ノ兩岸ヲ爲セリト

雖モ古來之ヲ濟ルニ橋梁ノ架設セラル、ナク纔ニ渡舟ノ便ヲ有セシニ過キス是レ獨リ兩町住民ノ不幸タルノミナラス之ヲ國家

有事ノ際ニ稽ヘ之ヲ地方産業ノ狀況ニ省ミ朝野ノ齊シク憂患トセル所ナリキ本府亦深ク茲ニ鑑ミ夙ニ本橋架設ノ計ヲ樹テ大正

六年議ヲ府會ニ付シ資ノ足ラサルヲ國帑ニ仰キテ工ヲ十四年ノ孟夏ニ起シ爾來經營懈ラヌ一年三箇月ノ日子ヲ關シテ新橋茲ニ

成ル工費參拾七萬餘圓築設堅牢、結構雄大蓋シ橋梁トシテ間然
スル所ナカルヘシ

希クハ富嶽千秋、玉水萬古長ヘニ橋礎ヲ護リテ人心愈偕和、産
業ヲ拓キ交易ヲ展ヘ地方ノ文化ヲ啓發シテ以テ國家ノ興隆ニ寄
與セラレムコトヲ慶祝ノ情自ラ禁セス聊カ所懐ヲ披キテ式辭ト
爲ス

大正十五年八月二十五日

東京府知事 平塚 廣義

祝 辭

日野橋架設工事成ルヲ告ケ本日茲ニ竣功ノ式ヲ舉グルニ至レル
ハ邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ

由來八號國道ハ甲州街道ト稱セラレ帝都ニ於ケル物資供給上極
メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ拘ラス多摩川ノ横過スル所橋梁ノ
設備ヲ缺キ從來纔ニ渡船ニ依リテ連絡ヲ圖ルニ過キス爲ニ道路
ノ効用著シク削減セラレ交通上遺憾ヲ想スルヤ久シ府當局深ク
此ニ察シ財政多事ノ際進テ架橋計畫ヲ樹立シ今乃チ堅牢宏壯ナ
ル新橋ノ成レルヲ見ルニ至ル惟フニ之ニ依テ今後東京八王子間
ノ交通ハ其ノ面目ヲ一新シ沿線地方ノ開發産業ノ發展ニ資スル
處蓋シ妙少ナラサルヘシ冀クハ地方官民諸子之方維持管理ニ力

ヲ致シ以テ長ニ其ノ効果ヲ收メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭
トス

大正十五年八月二十五日

内務大臣 濱口 雄幸

祝 辭

八號國道日野橋架設工事茲ニ本日ヲ以テ竣功ノ式ヲ舉グルヲ見
ルハ我國路政上寔ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ抑モ本國道ハ東京八
王子間ニ於ケル唯一ノ幹線道路トシテ交通上夙ニ重要ノ使命ヲ
有ス今乃チ東京府官民諸氏ノ協力ニ依リテ茲ニ新橋架設ノ功ヲ
完フシ從來纔ニ渡船ニ依リタル交通ノ不便ヲ除却シ以テ道路ト
シテノ効用ヲ増進ス念フニ今後之ニ依テ地方ノ開發産業ノ振興
ニ資補スル所蓋シ極メテ大ナルモノアルヘシ

本會創立以來道路改良ノ必要ヲ唱道スル多年今ヤ改良ノ機運到
ル所ニ横溢スルヲ見志望ノ空シカラサルヲ思フテ欣快ノ情禁ス
ル能ハサルモノアリ茲ニ本日盛儀ニ際シ衷心ノ祝意ヲ表シ併セ
テ今後益維持管理ニ努メ以テ長ニ其ノ効果ヲ完フセラレムコト
望ム

大正十五年八月二十五日

道路改良會長 水野 鍊太郎